

～連載～ 「若槻自然遺産」登録候補の紹介

(其の4) 鬼岩トンネルと奇岩群 ～大自然の壮大な営み～

鬼岩トンネルは隈取川の源流、吉3号線（高岡線）の八方峠手前に昭和10年に裾花凝灰岩の山腹を掘削した長さ約15m、幅4mの素掘りのトンネルです。

裾花凝灰岩は三登山林道に沿って広範囲に見られる崖、露岩で白っぽくもろい性質の地層です。

若槻地区、市街地から三登山を見上げた時、少し左側のほぼ中腹に緑の木々の中に白い岩の塊が見えているのをご存知ですね。この「白岩」と呼ばれている露岩、長野商業高校の裏裾花川の白い崖、犀川沿い小市あたりから茶臼山にかけての山沿いに見られる白い露岩や崖も同じ裾花凝灰岩です。

鬼岩トンネルの内壁には今から600～700万年前の海底火山で積もった火山灰の中に大小様々な形の礫が埋まっているのが見られます。埋まった礫の層が縦に帯状となってトンネルの天井を一周している様子を見る事が出来ます。火山灰の中に礫が堆積した時は水平になっていたはずですが、固まった後に地殻変動で90度立ち上がったものと推測されます。

トンネルの上の地表には2つの角状突起があつてしめ縄が張られていたとの記録がありますが、その後の浸食によってかそれらしい形は今は見当たりません。

トンネルの左手、谷に突き出した尾根上に高さ3mほどの大きな円錐の土柱が木立の間から見えます。仮に「大鬼の角」と名付けてみました。

トンネルの北側には風食によって彫り刻まれた「雲形」の大きな岩が2か所にあります。

見る人、見る位置などによっては「人の顔」か「鬼の顔」に見えたり「猫パス」の顔を連想させるものです。

「鬼岩」「鬼岩岸」というかつての地名もこの岩に由来するのかもしれませんが、これぞまさしく奇岩、大自然が生みだした芸術「自然の大彫刻」です。

隈取川と言えば、弘化4年に起こった善光寺大地震の際には源流で発生した土石流が新池の堤防を決壊させ泥流となって吉村の55軒を破壊し153人の命を奪った大災害の存在が地元などの記録にとどめられています。

鬼岩トンネルと奇岩群の前から、隈取川の源頭部を観察し、犠牲となった尊い命を偲び防災の意識を高める事も大切かと思います。

鬼岩トンネルと奇岩群はこうした善光寺平とそれを巡る山々の生い立ち、大自然の壮大な営み、危険の側面も含めて直に見、肌で感じる事ができる貴重な場所です。

飯縄山の前山としての三登山、そのすそ野の若槻地区に住んでよかったとの思いを共有しながら暮らす私たち。この思いと暮らしを大きく包み込んでくれている大自然に目を向け、思いを馳せるためにぜひ訪れていただきたい場所です。

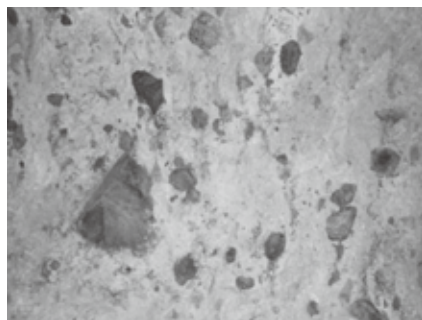
なお、裾花凝灰岩は風食が進み、露岩や露頭の中にはもろく崩れやすくなっている箇所が多く、落石の危険があります。雪解け時期、長雨時期、台風や地震の後など山地の崩落や地盤が緩んでいることが想定される場合は特に危険です。現地には「落石により危険なため立ち入らないで下さい」との注意書きが示されています。

コミわかでは安全を確保したうえで、現地を熟知した担当者が立会い、「調査、観察」を目的として入っています。鬼岩トンネルと奇岩群の見学希望の方はコミわか主催の見学会・観察会などの機会（こみわか広場で案内します）にご参加くださるようお願いします。

自然環境部会自然遺産委員会（文責・大村道雄）



▼トンネルの内壁
大小、形も様々の礫が埋め込まれた裾花凝灰岩。



◀トンネル南側は崩落が激しく入口は元の高さの倍以上に広がっています。トンネルの左上に突起の残骸のようなものが見えますが。

▶奇岩
頭上のこぶを
と鬼の顔？

